

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲・大豆作情報（第1号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第1号）

1. 情報田生育調査結果について

（1）耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	ヒノヒカリ (鳥栖市)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年:6/10)	6月23日 (平年:6/20)	6月19日 (平年:6/21)	6月20日 (平年:6/21)
栽植密度(株/m ²)	15.7 (52.5株/坪)	18.5 (61.6株/坪)	18.8 (62.6株/坪)	16.8 (55.9株/坪)

（2）調査結果（6月29日現在）

品種名	夢しずく	ヒノヒカリ	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	33.1	17.0	23.0	19.3
平年値(平年比)	36.8(90)	22.2(77)	25.3(91)	23.1(84)
莖数(本/m ²)	105	74	75	67
平年値(平年比)	187(56)	94.5(78)	72.5(104)	87(77)
葉齢(L)	6.3	4.7	4.8	4.4
平年値(平年比)	7.1(-0.6)	5.4(-0.5)	5.3(-0.3)	5.6(-1.0)
葉色(SPAD値)	—	—	—	—
平年値(平年比)	—	—	—	—

農試データは佐賀県農業試験研究センターのホームページで技術資料〈米づくり情報〉を確認してください。

[佐賀県 農業試験研究センター](#) 🔍

2. 気象及び普通期水稻の生育概況について（6月29日現在）

（1）気象

【平均気温】5月は平年より0.7℃高く、6月は平年より1.2℃高かった。

【日照時間】5月は平年比105%、6月は平年比136%であった。

【降水量】5月は平年比32%、6月は平年比70%であった。

【梅雨入り】6月17日ごろと平年より7日遅かった。

【梅雨明け】6月28日ごろと平年より21日早く、観測史上最も早くなった。

（2）生育概況

移植の中心は、「夢しずく」では、6月11～12日頃となり、その他の中晩性品種（「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」等）では、6月18～19日頃であった。草丈はどの品種も平年より低く、莖数は「夢しずく」が平年より少なく、「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「ヒヨクモチ」では分けつ抽出前である。

3. 普通期水稻の今後の管理について（7月4日～）

（1）水管理

①「夢しずく」の水管理

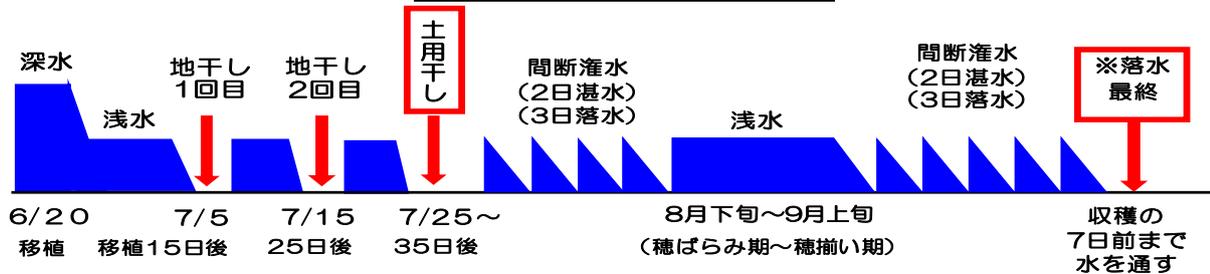
- ・除草剤施用後、湛水期間を過ぎた圃場は、深水管理とせず、足跡に水が溜まる程度の浅水管理を行う。
- ・移植が6月10～14日頃の圃場では、7月中旬頃から中干しの時期となる。1株あたり茎数が18本以上確保できた圃場は落水し「中干し」を実施する。中干しの目安は、ヒビが1cm程度（軽く足跡がつく程度）入る状態。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」の水管理

- ・梅雨明け後、高温多照で推移しているため、表層剥離が多く圃場で確認されている。深水管理を継続すると、①表層剥離の吹き寄せが水稻を押し倒す、②スクミリンゴガイの食害で欠株となる、③初期分けつが抑制される など、水稻の生育が阻害されるため、浅水管理を基本に行う。

③麦わら等残渣のすき込みによるガスの発生への対策

- ・今後も高温が続くと推測されるため、すき込んだ麦わら等の分解がさらに進み、ガスの発生が多くなることが考えられる。
- ・ガス害を避けるためには、落水（地干し）を半日～1日行います。



（2）病虫害防除について

①海外飛来性害虫

- ・7月4日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23～25）が確認されている。
- ・平坦部では、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）の寄生は確認できませんが、移植時期や品種により状況は異なると考えられるため、発生状況を注視する。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認してください。

佐賀県 農業技術防除センター 🔍

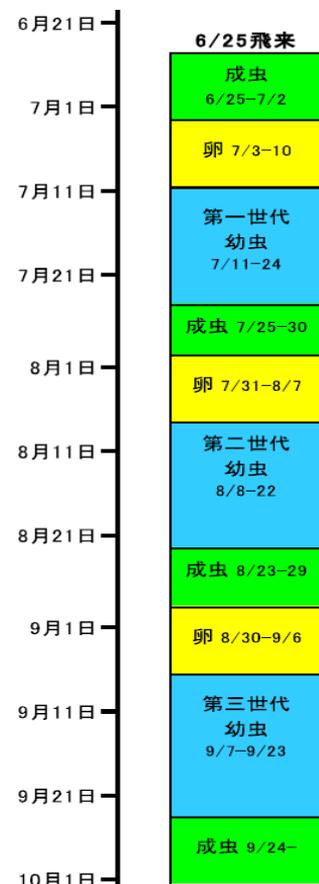


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2022年6月29日作成）

②いもち病

- 本田で新たな病斑の発生が認められたら防除を検討する。
- 補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する

(3) 除草作業

- 除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生がみられる。
- このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

表 1. 残草が目立つ圃場での防除方法

使用例	除草剤名	剤型	使用時期	備考
ノビエの発生が多い圃場	クリンチャー 1 扣粒剤	粒	移植後 7 日～レ I 4L (但し、収穫 30 日前まで)	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	クリンチャー EW	液	移植後 20 日～レ I 6L (但し、収穫 30 日前まで)	落水散布。展着剤加用する。
	ヒエクリーン 1 扣粒剤	粒	移植後 15 日～レ I 4L (但し、収穫 45 日前まで)	湛水散布 (3～4 日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	粒	移植後 15 日～55 日 (但し収穫 60 日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 落水～ごく浅く湛水散布。最低 3 日間（浅水処理は 5 日間）入落水しない。 • 処理後 2 日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 • 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
	バサグラン液剤	液	移植後 15 日～55 日 (但し収穫 50 日前まで)	
ノビエと広葉雑草の両方	クリンチャーバス ME 液剤	液	移植後 15 日～レ I 5L (但し収穫 50 日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 落水～ごく浅く湛水散布。最低 3 日間（浅水処理は 5 日間）入落水しない。 • 処理後 2 日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 • 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 (展着剤加用しないこと)
	ハイカット 1 扣粒剤	粒	移植後 15 日～レ I 3.5L (但し、収穫 60 日前まで)	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	ワイドアタック SC	液	移植後 20 日～レ I 6L	落水～ごく浅く湛水散布。 (展着剤加用しないこと)

注 1) 除草剤の再散布を行う場合は農薬の使用基準を遵守し、同一薬剤は避けて散布しましょう。

なお、再散布にあたっては最寄りの JA もしくは農業振興センターまでご相談ください。

注 2) 除草剤の散布にあたっては、剤により処理時の水管理が異なりますので注意してください

注 3) 薬剤は地区の暦参照（掲載品目が異なるため）

4. 台風対策

- 風による稲体の震動を少なくするため、台風前はできるだけ深水管理に努める。台風通過後は、新しい水と入れ換えた後、間断灌水により水稻生育の回復に努める。
- 水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。可能であれば掛け流しを行い除塩するか、少なくとも2回は水を入れ替え、生育回復に努める。
- 豪雨の影響で、深水状態が続くと、スクミリンゴカイによる食害が拡大する恐れがあるため、用排水管理を実施するとともに、薬剤防除を検討する。
- 麦わらの吹き寄せ等で稲株を押し倒したり覆い被さっている場合は、レーキ等で取り除く。

5. 大豆の今後の管理について

1) 播種適期を迎えています。台風の接近に伴い、週の前半は曇りや雨の日が多い見込みですが、後半は晴天が多くなる見込みです。

安定・多収を目指すには「出芽・苗立ち」が重要であり、播種前後の天気予報には十分留意して播種を行う。

参考) 週間天気予報 (佐賀県：7月4日 11時発表)

5日(月)	6日(水)	7日(木)	8日(金)	9日(土)	10日(日)	11日(月)
						

2) 雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）の散布や播種直後に土壌処理剤を散布等行います。その際、周囲の水稻等への飛散がない様注意する。

降雨が続き「元草除草」を実施できなかった圃場は、散布に当たっては次のことに留意し速やかに除草剤を散布する。

非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。（ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨OK、プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨OK）

3) 荒起しは、なるべく播種前日～当日に行う。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにする。

4) 紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、**種子消毒**を実施する。

5) 大豆の収量を確保するためには、**播種量**に気を付けて播種時期にあった栽植本数を確保する。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月1～10日	7～8本	75×30×2	2.5～3.0
7月11～20日	10本	75×25×2	3.0～3.5
7月21～31日	13本	75×20×2	4.0以上

6) 播種深度は、播種後に降雨が多い予報の場合、2cmの浅めにして播種後の鎮圧は行わない。播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧を行う。

7) 大豆は播種後2日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下する為、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合の播種は実施しない。

8) 1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。

9) 播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。

* 難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場では、フルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

令和4年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

三神農業振興センター

